

台湾滞在記

[滞在記 3] 台湾雑感

昭和 58 年(1983 年)8 月末から 9 月初めに、楊維楨先生(当時国立台湾大学教授)のお招きで台湾を訪ねたのが初めてです。中華民国電脳学会・教育省共催の「情報ネットワーク研究会」で「符号理論」の話をしました。もう一人の富士通・故八星礼剛さんは「コンピュータネットワーク」の話をされました。英語の講義だったので、準備が大変だった記憶があります。9 月 1 日は丁度、大韓航空機がソ連のミグ戦闘機に撃墜された日で、早朝宿泊先のホテル(康華大飯店)のテレビでニュースを見たのを鮮明に覚えています。

以来、楊先生が訪日の際、工場見学に案内したり、1988 年・第 12 回 SITA(別府)にご招待したりでお付き合いを続けてきました。この間、淡江大学で開催された 2000 International Conference of Management Science and Decision Making に招待されるまでご無沙汰していましたが、その後再び訪ねるようになり、今回で 5 回目になります。私の兄嫁が台湾育ちだったのでいろんな話を聞き、台湾にはもともと親近感があります。その様なわけで、感想を書き留めます。全くの個人的な意見なので、余り参考にはならないかも知れません。

(1) 国立故宮博物院

URL:<http://www.npm.gov.tw/jp/e010101.htm>

<http://www.fsinet.or.jp/~kyouko-h/chinacave/kokyuu/kokyuu.htm>

<http://www.tabitabi-taipei.com/youyou/200307/>

前々回は休日が入っていたので 2 日間かけて見学しました。勿論、国宝級美術品総計 70 万点で、常時 6000 点展示、(一部の至宝品を除いて) 3-6 ヶ月毎に入れ替えても 30 年以上かかる勘定になりますから、ほんの一部を見たに過ぎません。今回は 2 年前からの建物の工事中で会場は非常に狭く、しかも休日とあって子供が多く、ほとんど見る事が出来ませんでした。最初から 3 階の青銅器・陶磁器だけにしようと思いましたが、それでも時間がかかりました。3 階に上がり、まず部屋の中央に周代の鍋と思われる青銅器に圧倒されま。3000 年も前に蒸し器に使われていたと言うから驚きです。ほとんどが当時の皇帝用の愛用品で、隆盛と権威の象徴を示すものですから素晴らしさは想像出来ると思います。3 本足の酒器など現代風のデザインのものもあり、見ていて楽しいものです。風変わりな形のもので用途が不明、あるいは特定出来ないものもあります。結局、陶磁器まで辿り着けませんでした。そんなわけで今回は使いませんでした。電話機のような日本語の「語音導覽指南」(展示品の前に行くと自動解説案内される)を使うともっと理解出来ると思います。

故宮博物院の美術品はもともと北京の故宮にあった財宝を、日中戦争が激化したため当時の中華民国政府が上海・南京に分散配置し、終戦後の内乱から国民党（蒋介石ら）が台湾に運んだものです。私は絵画・彫刻などの美術品には余り興味がありませんが、メキシコ・エジプト・トルコ・中国などの考古学的な作品には興味があります。その意味で、台湾の美術品に対する見識に敬服し、魅力の一つになっています。

(2) 琉球処分

どういう訳か、高校時代に習った「台湾出兵」（今は中学で「琉球処分」として歴史で習っているそうです）が記憶に残っています。それはおおよそ次のような話です。明治初期、当時の琉球島民が台湾に漂着し台湾の住民に殺害され、これを日本政府は清に抗議した際、清は台湾を「化外の民」として責任を回避した。当時、琉球は半独立国で日本と清に半分づつ帰属していたが、この責任回避により琉球島民を日本国民と認め（琉球処分）、日本は台湾に出兵（台湾出兵）し、これを正した。これにより、清は台湾を統治の及ばない、つまり中国の一部ではないことを宣言していることになる。ずっと以前の話ですが。

(3) 気質

台湾の人達の気質は日本によく似ています。日本人以上に大変丁寧、親切、人懐っこく、最近の日本人のように妙に警戒し引くようなことはありません。日本の田舎を旅行するより、余程落ち着きます。言葉が通じないのは苦労しますが、殆どの年寄り是一片言の日本語を話すようです。若いビジネスマンも日本語を勉強している人が多いし、英語を話す人も増えているように思います。また、最近の日本は殺伐とした面が目立ちますが、台湾では昔の伝統が残っているようです。「日本の植民地時代は」などと話す人もいますが、悪気で使っているようには思えません。台南の国立成功大学は名門ですが、「日本が植民地時代に創った学校です」と言う具合です。しかし、せめて「統治時代」と言って欲しいと思います。武官総督から文官総督に替え、教育・法律・農業の振興や病院・鉄道などの整備を推進した評価すべき面もあります。しかし、政治運動を武力で弾圧したことも事実です。

最後になりましたが、台湾では政治的な話題は避けるべきでしょう。しかし、台湾の歴史・政治体制などについては、しっかり勉強し自分の考えを持つべきです。台湾についてはいっぱい話したいことがあります。ひとまずここまでにします。今回の訪問を契機に、益々交流を深めることを私も努力しますが、皆さんにも期待しています。

[平成 18 年 4 月 22 日記]